

目次

第11回大会開催案内

会員研究情報

「15年戦争と子供—日本の近代を探るてがかり」…………… 是澤博昭

「戦後期保育研究について考えること」…………… 松本園子

新入会員・会員異動

寄贈図書

事務局からのお知らせ

第11回大会開催案内

第11回大会は2015年12月5日(土)に福山市立大学で開催いたします。福山市は広島県の東端に位置し、南は瀬戸内海に面し、東は岡山県に隣接する備後都市圏の中心都市です。新幹線のぞみ号に乘車すれば(1時間に1本、福山駅に停車するのぞみ号があります)、東京から約3時間半、新大阪から約1時間、博多から約1時間半で到着する便利な場所にあります。観光スポットとしては、古くから潮待ちの港として栄え、江戸時代の町並みを今に残す鞆の浦(ともうら)が有名です(JR福山駅からバスで約30分)。

福山市立大学は福山市立女子短期大学を前身とし、2011年4月に開学した男女共学の公立4年制大学です。学部は教育学部と都市経営学部の2学部、学生数は両学部の4学年を合わせて千名ほど、専任教員は54名という小規模な大学ですが、地域に密着し、地域に根ざした特色ある教育研究を展開しています。また今年4月には教育学研究科と都市経営学研究科から成る大学院(修士課程)も開設されました。

大会シンポジウムで取り上げる倉敷さつき会保育所「若竹の園」(現、社会福祉法人「若竹の園」)は、福山市から近い岡山県倉敷市の美観地区にあります。大会翌日の12月6日(日)には、関連企画として「若竹の園」見学の予定を組んでいます。「若竹の園」は1925(大正14)年に倉敷紡績株式会社社長大原孫三郎夫人の大原壽恵子が会長を務める修養教化団体「倉敷さつき会」によって設立された保育所です。孫三郎の依頼により西村伊作が設計した園舎は、バンガロー様式を採り入れた、“森の中に立つおとぎの国のような園舎”と称されています。そしてこの園舎が現在も保育所として使われ続けているので、学会員の皆様にこの機会にぜひご覧いただきたく企画を立てました。「若竹の園」の職員の方々にお話を伺う時間も設けたく、現在調整中です。

「若竹の園」見学の後は現地解散となりますが、午後には引き続き「若竹の園」にて、恒例の愉フロロ会（海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会）が開催される予定です。あわせてぜひご参加ください。

詳しいプログラム等は10月に発送する予定ですが、最新の情報は学会ホームページで適宜お知らせいたします。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（第11回大会実行委員会：高月教恵（委員長）・吉長真子・劉郷英・松島のり子）

大会開催要項

1. 期日：2015年12月5日（土）

※翌12月6日（日）に関連企画を準備しています。

2. 会場：福山市立大学 港町キャンパス（広島県福山市2-19-1）

※JR福山駅（新幹線のぞみ、さくら等が停車します）からバスで約10分です。

3. 日程（予定）：

9:00～ 受付

9:30～13:00 研究発表

14:00～16:30 シンポジウム

16:45～17:30 総会

18:30～20:30 懇親会

4. シンポジウム

テーマ：日本における幼児保育の新しい潮流

——倉敷さつき会保育所「若竹の園」の成立——

提案者：宍戸 健夫（愛知県立大学名誉教授）、高月 教恵（福山市立大学）

司会・指定討論者：湯川 嘉津美（上智大学）

〈趣旨説明〉

倉敷の美観地区の片隅に、コテージ風のなんともおもむきのある園舎がある。これが「若竹の園」である。1925（大正14）年に、大原孫三郎（1880－1943）が西村伊作（1884－1963）に設計を依頼して建てられた保育所である。経営母体は修養教化団体「倉敷さつき会」、保育所「若竹の園」に直接関与したのは、大原孫三郎の妻大原壽恵子である。美観地区は、倉敷紡績株式会社を1907（明治40）年に父親からひきついで社長になった大原孫三郎の経営理念—「労働理想主義」と「共同作業場」理念—の体現物だということができる。今はホテルになっているレンガ造りの紡績工場や、大原美術館や倉敷民芸館、倉敷中央病院など、そして「若竹の園」もその一つである。

本シンポジウムでは、この保育所の設立理念、保育の実際について考察し、日本の幼児保育の歴史の中で「若竹の園」の成立はどのような意味をもつのかについて提案したい。大正デモクラシー期の

倉敷で試みられた「養育の社会化」は、現在そして今後の日本の保育（保育政策、保育内容・方法）に重要な示唆を与えると考えられるからである。

〈参考文献〉

- ・ 穴戸健夫『日本における保育園の誕生—子どもたちの貧困に挑んだ人びと—』新読書社、2014年
- ・ 高月教恵「保育所「若竹の園」と大原孫三郎の経営理念」安川悦子・高月教恵編著『子どもの養育の社会化—パラダイムチェンジのために—』御茶の水書房、2014年
- ・ 高月教恵『日本における保育実践史研究—大正デモクラシー期を中心に—』御茶の水書房、2010年

5. 大会参加費・懇親会費

大会参加費：会員・非会員 1000円 / 院生 無料

懇親会費：会員・非会員 5000円 / 院生 3000円

※前納方式は採りませんので、当日受付でお支払い下さい。

6. 研究発表の申し込み

①申し込み方法

同封の申込書（学会 HP からダウンロードできます）に記入の上、**9月5日（土）までに**（消印有効）、電子メールまたは郵便にて学会事務局へお送りください。電子メールの場合のみ、数日以内に到着確認のメールを返信します。

郵送先：〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学 小玉亮子研究室気付 幼児教育史学会事務局

メール：admin@youjikyoiikushi.org（学会事務局）

②発表資格

一般会員：申し込み時に年会費を納入済みのこと

新入会員：申し込み時までに入会手続きを終え、年会費を納入済みのこと

③発表時間

一人（1グループ）あたり 25分（質疑応答 5分を含む）を予定していますが、変更する可能性もあることをご確認ください。

④発表受付手順

学会事務局で申し込みを受領した後、理事会にて発表内容を検討します。その結果、発表数調整のため、個別に連絡を差し上げる場合があります。理事会で発表者を確定した後に、大会実行委員会から発表要旨集の執筆要領を送付します。なお、発表要旨集の原稿提出締切は11月13日（金）の予定です。

7. その他

①福山市立大学へのアクセスは、大学 HP でご確認ください。

<http://www.fcu.ac.jp/>

②シンポジウムは、福山市立大学教育研究交流センターと共催にするため、公開講座となります。

- ③12月5日(土)の昼食については、大学の食堂に営業を依頼するか、弁当販売にするか、検討中です。
- ④懇親会の会場は、福山駅近くの「農家食堂ルオント」(福山市三之丸町4-12)を予定しています。地元産の新鮮な食材を使ったイタリアンバルです。料理にも飲み物にもきっと満足していただけると思いますので、ぜひご参加ください。
- ⑤宿泊は、福山駅近辺のホテルが便利です。

関連企画について

大会翌日の12月6日(日)に、以下の企画を用意しています。会場は岡山県倉敷市の「若竹の園」(倉敷市中央1-6-12)です。

〈JR山陽本線普通電車〉

広島、尾道方面……福山——(43分)——倉敷——(17分)——岡山……神戸方面

1. 「若竹の園」見学

日程：9:30 JR倉敷駅集合 (JR山陽本線普通電車 福山駅8:43発→倉敷駅9:26着)

→ 徒歩で「若竹の園」へ(約15分)

10:00~12:00 見学等

12:00 現地解散

※新幹線でお帰りの方は、JR山陽本線普通電車で倉敷駅から岡山駅までご乗車になり(17分)、新幹線に乗り継いでください。

2. 愉フォロ会(海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会)

時間：13:00頃~15:00

会場：「若竹の園」

報告者・テーマ：未定

問い合わせ先

〒721-0964 広島県福山市港町2-19-1

福山市立大学教育学部 吉長真子研究室気付

幼児教育史学会第11回大会実行委員会

電話：084-999-1111(大学代表)

084-999-1100(吉長研究室直通)

メール：n-yoshinaga@fcu.ac.jp

会員研究情報

15年戦争と子供—日本の近代を探るてがかり

是澤博昭（大妻女子大学）

昨年12月の幼児教育史学会総大会は学務と重なり欠席しましたが、関連企画の鼎談「子ども・戦争・歴史」を拝聴し、大変勉強になりました。現在私は1930年代に大衆化した近代的な子供観が、国際紛争の醜さを覆い隠すイメージ戦略の一つとして活用されはじめる過程をテーマに勉強しています（『歴史評論』756号、『渋沢研究』第27号、『大妻女子大学家政学系紀要』第51号など）。その意味でも同時代に生きた子供の視点を踏まえた先生方のお話は、とても参考になりました。

先日カリフォルニア大学サンタバーバラ校が主催するシンポジウム『Child's Play: Multi-sensory Histories of Children and Childhoods in Japan and Beyond』に参加しました（2月27日～28日）。このシンポの目的は、「日本人がどのように幼少期を過ごしているのかを歴史的に研究している研究者が国や地域の枠を越えて交流し意見交換をする」ことでした。

私を含め日本から4名が招待され、米・英・独・豪・墺など10数名の報告と討論がありました。もちろん私は日本語の報告です。英語の発表は同大関係者が適切に要約してくれました。またウィーン大学のセップ・リンハルト先生が欠席され最初の発表者となりあせりました。

私に求められたのは拙著（『教育玩具の近代』）の内容ですが、他の発表の多くが15年戦争の時代に関連するテーマだったことは意外でした。

参考までに、そのタイトルなどを紹介します。

Lizbeth Halliday Piel (U of Manchester)

Outdoor Play in Wartime Japan

Aaron Moore (U of Manchester)

Reversing the Gaze: Authority, Agency, and the Image of Adults in the Wartime Diaries of Japanese Children and Youth

Sabine Frühstück (U of California at Santa Barbara)

On the Moral Authority of Innocence

Harald Salomon (Humboldt U)

Children in the Wind: Representations of Childhood in the Media Culture of Early Showa Japan
（また『踊る帝国主義—宝塚をめぐるセクシャルポリティクスと大衆文化』（現代書館）を著されたミシガン大学のジェニファー・ロバートソンさんも2日目のシンポジストとして参加されていました。）

15年戦争時の子供へのまなざしや生活には、日本の近代を探る特徴的な何かが潜んでいるように、私には思われてなりません。海外の人の目から見ても、日本の戦争期の子供の姿は関心の高いテーマであることを、今回のシンポで、改めて実感しました。

周知のように子供の生活文化を研究するにあたり、文献史料は限られています。どうしても周辺資料や生活文化財、いわゆるモノ（玩具・衣服・文具など）を活用して研究を補完する必要があります。幸

い昨年9月、国立民族学博物館の共同研究「モノにみる近代日本の子どもの生活と文化の総合的研究」(研究代表:是澤博昭・2014年9月～2018年3月)が採択されました。児童文化史、教育史をはじめ、美術史・歴史学・民俗学・文化地理学などの様々な専門分野の人々が参加して、同館の所蔵資料などを活用し、近代日本の子供観の形成過程を解明する共同研究です。(『民博通信』No148、なお本学会からは小山みずえさん・是澤優子さんが共同研究員として参加されています。)

成果報告は出版だけでなく、(一般に還元するという意味でも)展示会を計画しています。その際15年戦争と子供は重要なテーマの一つになるでしょう。それでも基礎となるものは文献研究です。学会の成果報告から何らかの刺激をうけることを期待しています。幼児教育史学会誌に注目し、楽しみしている、今日この頃です。

戦後期保育研究について考えること

松本園子(白梅学園大学)

このたび松本編・解説『編集復刻版・民主保育連盟資料』を出版した(六花出版、2015・5)。民主保育連盟(1946～52)の機関紙『民主保育ニュース』および連盟関係資料を収録したもので、松本編著『証言・戦後改革期の保育運動―民主保育連盟の時代』(新読書社、2013)のいわば資料編である。いずれも、かつて筆者が参加した東京保育問題研究会における戦後保育運動史共同研究(1980年代末～90年代)が発端であるが、時経て、諸般の事情から筆者個人の仕事となってしまった。多くの方への責任をようやく果たし、ほっとしている。

二つの本をまとめた経験から、今、戦後期保育研究について考えていることを述べたい。

第一に、戦後期保育研究の必要性である。近年、日本国憲法を柱とする戦後体制に揺らぎが生じており、子ども・子育て新制度施行はその一つとして捉えられる。すべて不変であるべきだとは思わない。しかし、新制度議論の中で、児童福祉法保育所制度の先駆性、積極性が全く認識されていないことに愕然とした。筆者の本で取り上げたのは、東京の民主保育連盟にかかわった保育の状況に限られている。揺らぎつつある今だからこそ、戦後期保育の事実をもっと広く全国的に掘り起こし、制度成立の背景を解明し、その意義を再検討する研究を一層すすめる必要がある。

第二に、史資料の点から戦後期研究が急がれることである。戦後期は紙等物資が不足しており、文書資料が乏しい。

活版印刷の公刊文書はどこかに残される可能性が高いが、小さな団体や施設の印刷物は、いわゆるガリ版の謄写印刷で、部数も少ない。意識的に収集・保管しておかないと、急速に失われてしまう。今回復刻した『民主保育ニュース』も、故浦辺史氏が大切に保管していたものを譲り受けたのであるが、質の悪い紙に両面謄写印刷で、ゴマ粒のような文字がぎっしり、というもの。しかし、そこには貴重な情報が詰まっている。復刻に当たり、B5判からA4判に拡大し、汚れをとり、ほぼ“読める”ものとなった。

園の業務日誌や保育日誌などの資料も重要である。筆者はR保育園の1948～50年の日誌類を入手し、これまで一部は論文等で使っている。しかし、保育日誌など大部分は手をつけていない。これらも、さらに広く意識的に収集・保管し、整理・分析につなげていく努力が必要だと考えているが、一人はでき

そうにない。

第三に、当事者からの聴取りの必要である。文書資料を補う当事者証言をできるだけ収集する必要がある。松本（2013）に収録したように、これはある程度実行した。しかし、もっと幅広く徹底的に実施する必要があると考え、20年ほど前に当事者からの聴取りを中心とした計画で科研費を申請したが、あえなく撃沈。翌年も挑戦すればよかったが、個人的事情で研究そのものが難しくなり中断してしまった。当事者は、いまはすでに高齢となり、亡くなったかたも多く、聴取りは難しくなった。あのときやっておけばよかったと悔やんでいる。

ただ、もう一方の当事者である、当時の子どもはまだ元気である（筆者自身も1952年頃幼稚園児だった）。筆者は、子どもにとってその保育がどのようなものであったかという視点をもっと大切にしなければならぬと考え、今取り組んでいる明治期二葉幼稚園研究においても、保育者の記録のなかからそれを読み取ろうとしている。戦後期保育については、子どもからの聴取りが可能である。今60代～70代の彼等からの保育経験にかんする組織的聴取り調査ができないだろうかと夢想している。

第四に、戦後期（敗戦—占領—平和条約・安保条約）については、政治的にも未だ多くの謎がある。保育分野においても、そのことと関わる複雑な事情、混乱があったと思われる。松本（2013）において、民主保育連盟解散の引き金となった、当時の政治状況と絡む組織的混乱について、先行研究よりも踏み込んでふれた。今更古傷を暴くようなことをしなくても、という当事者に近い方からの善意の声もあったが、記録として残すことが必要だと考えた。戦後期は、ほんの60～70年前であり、まだ客観的な歴史として評価するのが難しい部分もある。しかし、多くの人々がそれを知り考えることができるよう、資料を文書として残しておくことも研究者の役割だと考える。

新入会員・会員異動

（省略）

寄贈図書

師岡章 『子どもらしさを大切にする保育—子ども理解と指導・援助のポイント—』 新読書社, 2015.

師岡章 『保育カリキュラム総論—実践に連動した計画・評価のあり方、進め方—』 同文書院, 2015.

竹内通夫 『ピアジェの構成主義と教育—ピアジェが私たちに投げかけたもの—』 あるむ, 2015.

松島のり子 『「保育」の戦後史—幼稚園・保育所の普及とその地域差—』 六花出版, 2015.

事務局からのお知らせ

1) 学会誌販売のお知らせ

最新号(第9号)は定価の2,000円で、それ以前のものについてはすべて一冊500円(送料は着払い)で販売致します。ご希望の方は学会事務局までご連絡ください。

2) 会費納入のお願い

本学会の会計年度は10月1日から翌年の9月30日までです。今回、振込用紙は、会費納入状況を確認のうえ、第10回大会年度(2014年10月1日～2015年9月30日)とそれ以前の年度の会費が未納の方に、お送りしております。払込用紙に記載された未納分年度、金額をご確認のうえご納入ください。

年会費：一般会員 7,000円、学生会員 4,000円

送金先：口座番号 00190-9-73668、加入者名 幼児教育史学会

今回は該当の会員にのみ用振込用紙を同封していますので、それが入っていない会員は完納状態にあります。なお、2015年6月現在の会費納入状況をもとに請求させていただいております。本状と行き違いでご納入いただいております場合は、何卒ご容赦ください。

3) 会報原稿の募集

会報を通じて研究情報の提供と研究者間の交流に努めています。会員研究情報、新会員の自己紹介(全員の方にお願いしています)、海外幼児教育だより、幼児教育史研究への提言などをお寄せください。文量は3000字程度で、メールまたは郵便で、なるべくデータを付けて事務局までお送りください。年2回の会報発行時までに届いた分を随時、掲載します。次回の会報は2016年2月頃に出る予定です。

4) 所属・住所などの変更届けに関するお願い

変更が生じた場合は学会事務局までお知らせください。

幼児教育史学会会報 第20号 2015年6月30日

編集・発行 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学 小玉亮子研究室気付 幼児教育史学会事務局

Tel/Fax : 03-5978-5342

E-mail : admin@youjikyokushi.org

学会 HP : <http://youjikyokushi.org>

郵便振替口座 00190-9-73668 幼児教育史学会

印刷 株式会社コムラ